

編集後記

今号は、論考六本、翻刻紹介一本という陣容になりました。人文学科から心理コースが、改組独立して心理学科となり、二十六年度からスタートしました。人文学部をとりまく環境も変化を迫られています。そのなかで雑誌を刊行するのも、たやすいことではなくなるときがくるでしょう。ただ、思うまま、自由に書いていただけること、それが本誌の長所でもあります。その肝心かなめは、失わぬようにしたい。研究論文はもちろん、評論でも、あるいは、連載でも歓迎です。多彩な論考がそろふことを願っています。もちろん内容も充実して。

「山椒は小粒で、ピリリと辛い」。そんな雑誌でありたいものです。

(小)

東海学園 言語・文学・文化

第十三号 (通巻第七十二号)

平成二十六年 三月二十日 印刷
平成二十六年 三月三十日 発行 非売品

編集 名古屋市天白区中平二丁目九〇一番地
発行 東海学園大学日本文化学会

代表 小林 幸夫

電話 (五)八〇二二二〇一
振替 〇〇八三〇一五二九三二二

印刷所 豊橋市下地町字宮腰二四
詢イシグロ 高速印刷